

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成30年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野(4/6)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
奈良公園観光地域活性化総合特区(奈良県)	3.9	4.0 進捗度 ・奈良市の観光入込客数の増加 98% ・奈良市の宿泊者数の増加 89% ・奈良市の観光消費額の増加 86%	3.9 規制の特例等 ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 等 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 等 地域独自の取組 ・創業支援資金 ・宿泊施設の新設、増設にかかる税制優遇 等	3.8	<p>・全体的にステップが明確に示され、十分優れた取組みが展開されている。</p> <p>・地域独自の取組みについて、奈良の観光特性・条件に良く適合した内容であり、色々とあつて良い。Free-Wi-Fiの追加整備、トイレの改修工事など、満足度の向上に繋がる整備が着実に推進されている点は高い評価に値する。</p> <p>・本事業では地域通訳案内士の育成に重点が置かれているので、地域通訳案内士に関する育成状況や稼働状況を前面に出すべきである。稼働状況は、現状では不十分である。</p> <p>・育成してきた地域通訳案内士の活用の場づくり(観光案内所や観光関連施設等との連携等)と仕掛け(旅行会社とのマッチングや定期観光バス運行との連携等)が望まれる。歴史文化都市としての特性を生かした付加価値が高い観光コンテンツを一層磨くことで、背景やその本質を伝える地域通訳案内士の活躍の場も広がることにつながる。</p> <p>・消費額拡大に向け、県内広域周遊を促すことで、宿泊滞在者を増加させる取り組みを強化されたい。</p> <p>・観光消費額の増大、奈良観光の大きな課題である高級・高額ホテルの立地促進のためにも、「MICE」(Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition)とりわけ相対的に会場・宿泊収容力が少なくても開催のポテンシャルが高い「M・I」の誘致に向けた取組みが望まれる。</p>